

1996年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の受賞候補者 及び研究助成候補者の推薦依頼について

「女性科学者に明るい未来をの会」から気象学会宛に「猿橋賞」及び「研究助成」候補者の推薦依頼がありました。ご推薦をお願いします。

学会締切日：1995年10月20日

推薦書の送付先：学会事務局気付（推薦書用紙は学会事務局に請求して下さい。）

「各賞」担当理事

記

猿橋賞

- 1 本賞は自然科学の分野で、顕著な研究業績を取った女性科学者（ただし、下記の推薦締切日で50歳未満）に贈呈します。
- 2 本賞は賞状とし、副賞として賞金（30万円）をそえます。
- 3 本賞の贈呈は1年1件（1名）です。

4 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由（400字程度）、略歴、主な業績リスト、主な論文別刷10編程度を、本会事務所までお送り下さい。

5 締切は1995年11月30日（必着）。

6 第16回の賞贈呈式は、1996年5月、東京において行なう予定です。

研究助成

- 1 海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者に対し、研究助成をいたします。
- 2 助成金は1件10万円とし、年に数件とします。
- 3 所定の用紙に推薦対象者（各締切日において満40歳未満）の略歴、研究業績、国際会議名（主催団体、開催場所、年月日）、発表論文題目、推薦理由等を記入して、本会事務所までお送りください。
- 4 締切は1995年11月末日と、1996年4月末日の2回。



日本原子力研究所研究員募集

1. 公募人員：研究員1名
(研究グループの中核となる方)
2. 所属先：海洋環境研究調査グループ
(青森県むつ市日本原子力研究所むつ事業所内)
3. 研究内容：海洋環境に関する物理的・化学的研究
(地球環境における大気海洋間の放射性核種等の諸量の交換及び循環過程に関する研究)
4. 着任時期：平成7年11月1日から平成8年4月1日の間
5. 応募資格：修士課程終了以上の経歴を有し、原則として平成7年9月30日の時点で35歳

以下の方で、当研究所の採用試験を受験したことがない方

6. 提出書類：①履歴書（当研究所指定様式）
②大学及び大学院の卒業／修了証明書
③研究経歴書（様式自由）、研究業績リスト及び主要論文の別刷
7. 応募締切：平成7年8月25日（金）
8. 応募書類の送付及び問い合わせ先：
〒100 千代田区内幸町2-2-2
日本原子力研究所 人事部人事課
TEL：03-3592-2176 FAX：03-3592-2179

講演企画委員会からのお知らせ——「スペシャル・セッション」のテーマ募集

1996年度春季大会（大宮、5月21～23日の予定）におけるスペシャル・セッションのテーマと世話人を募集します。スペシャル・セッションにおいては、世話人と講演企画委員会との協議のもとに、通常のセッション編成の枠にとらわれない企画ができます。具体的な実施方法については「天気」1994年2月号（78ページ）をごらん下さい。なお、申込テーマの重複や総数によっては講演企画委員会で調整をする場合もありますので、ご了承下さい。

応募される方は、下記の事項を期限内にお知らせ下さい。

1. セッションのテーマ
2. 趣旨説明（400字程度）
3. 世話人およびその連絡先

（予稿コピーの送付先住所を明記のこと）

以上は「天気」12月号または1月号に掲載されます。

申込先：〒305 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所・予報研究部内

講演企画委員会（藤部文昭）

申込期限：1995年11月15日（水）必着



サイエンス・ボランティア募集について

文部省では平成7年度からサイエンス・ボランティア制度を実施することとなり、「サイエンス・ボランティア登録名簿の作成および提供」業務を社団法人日本工学会に委託してまいりました。この制度は、青少年や社会人に科学技術について正しい知識と理解を深めて貰うために設けたものです。

日本には自然科学に関する博物館が約260あります。しかし、来館者に説明し、かつ正しい知識と理解を与える学芸員は、1館あたり0.3名しかおりません。また、都道府県の教育委員会等が主催する各種のイベントでも、科学技術に関する正しい表現等に欠けるものも見受けられます。

そこで、文部省では、教育機関（大学・高専・高校等）で長く青少年教育に携わった方、企業等で専門家として活躍された方、特殊な技術をもっている方々のご協力を得て、全国的にサイエンス・ボランティア活動を本年度から実施することにしました。この制度は人材派遣ではなく、サイエンス・ボランティアを必要とする機関に情報を提供する事業です。

それに従って、日本工学会では下記要綱でサイエンス・ボランティアを公募いたします。

記

1. **応募の期日**：いつでも受け付けます。ただし、本年度は初めてですので、一応の期限を平成7年10月末日とします。
2. **応募資格**：とくにありませんが、ボランティアとして青少年・社会人に科学技術の面白さを、教えたり、一緒に楽しめる方。
3. **応募申込み**：ハガキに氏名・年齢・性別・連絡先住所・同電話番号を明記して、日本工学会まで登録用紙を請求して下さい。
4. **資格審査**：日本工学会内に設けた「サイエンス・ボランティア企画委員会」において資格審査を行い結果をお知らせします。
5. **登録用紙請求先および問い合わせ先**：
〒107 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
社団法人日本工学会
「サイエンス・ボランティア係」
TEL 03-3475-4621 FAX 03-3403-1738

万博記念財団より旅費の援助を受けました。ここに記して、感謝致します。

参 考 文 献

Bottomley, M., C. K. Folland, J. Hsiung, R. E. Newell

and D. E. Parker, 1990 : Global Ocean Surface Temperature Atlas, 24 pp+313 plates, HMSO, London.

鬼頭昭雄, 岩崎俊樹, 1992 : モデル相互比較実験研究会に参加して, 天気, 39, 673-677.



5th International Conference on Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality (ASAAQ) のお知らせ

上記会議が1996年6月18-20日に米国ワシントン州シアトルで開催される予定です。

議題の範囲：特に環太平洋域・アジア域における大気科学と大気質

トピックス：酸性沈着, 都市環境, 地域モデル, 総合評価モデル, 対流圏化学, 海洋・大気間交換, 大気質と気象, 大気汚染物や温暖化ガスのモニタリング

発表希望者は200-400語の英文要旨を1995年12月1日以前に下記の Carmichael 迄送って下さい。本会議での発表は査読後 Atmospheric Environment の特別号として刊行される予定です。

Professor Gregory R. Carmichael
Center for Global & Regional Environmental
Research
204 IATL

University of Iowa
Iowa City, Iowa, 52242, USA

Tel : 319-335-1399

Fax : 319-335-1415

e-mail : gcarmich@icaen.uiowa.edu

問い合わせ先：大喜多敏一

〒194-02 町田市常磐町3758

Tel. 0427-97-2661

化およびその中緯度偏西風との相互作用の可能性を示した。

一般講演は希望者を募ったところ各分野のバランスが取れた形になり、異なる分野の研究に触れるという点では良かったと思います。

5. おわりに

今回の「夏の学校」の開催に当たり、当学会講演企画委員会から補助金を戴きました。ここに感謝の意を表するとともに、この報告書の提出が遅れたことをお詫び致します。また施設を利用させていただいた大山研修センターの皆様へ深く感謝します。



地球環境研究総合推進費 研究成果発表会

名称 平成7年度地球環境研究総合推進費研究成果発表会

日時 平成7年10月2日(月)～6日(金)
9:00～17:00 (初日のみ10:30開始, 終了時間は変動あり)

場所 中央大学駿河台記念館
東京都千代田区神田駿河台3-11-5

発表内容 10月2日(月) オゾン層の破壊
3日(火) 地球温暖化(1. 現象解明)
4日(水) 総合化研究
その他の地球環境問題
人間・社会的側面から見た地球環境問題
地球温暖化
(2. 影響・対策)
5日(木) 酸性雨
海洋汚染
6日(金) 熱帯林の減少
生物多様性の減少
砂漠化

* 各分野の発表・質疑終了後に40分間のパネルディスカッションの時間が設けられます。

* 各日とも発表終了後に懇親会を開催します

参加費 研究発表・パネルディスカッション：無料
懇親会：2,000円(当日懇親会場にて集めます)

お申し込み・お問い合わせ

下記事務局宛に申込用紙(プログラム)をご請求下さい。

締切：平成7年9月15日

(社)環境情報科学センター

〒102 千代田区九段南4-7-24

TEL 03-3265-3916

FAX 03-3234-5407

担当：間正(ましよう)

補者2名について、担当の高橋理事から経過を含めて理事長に書面で報告があり、推薦理由書の一部不明箇所について確認したうえ、全理事の承認投票にかけることとする。

5. 「気象科学事典」への対応について

第3回理事会での「学会として取り組む」との決定を受け、書店側との当面の折衝窓口を大西理事とすることを決定。書店側との折衝を進めながら、編集委員5名程度や執筆担当者の人選を平行して行っていくこととする。

6. 講演企画委員会の委員の交代について

沼口委員（国立環境研）の菅田会員（国立環境研）

への交代を承認。

7. 地学関連学会間連絡協議会（仮称）の設立呼びかけへの対応について

日本地学教育学会から「学校教育のなかで地学でどのような内容を教えることがより有効であるかを十分に検討する必要がある、その際、研究者の方々から意見をいただくことが不可欠。地学に関連する各学会と十分に意見交換を行うために関係学会間の連絡協議会を設立したい」との呼びかけがあり、これについて常任理事会として対応を協議。気象学会としても積極的に参加していく旨、返事することにし、担当者については後日決定することにする。



エコテクノロジーに関するアジア国際シンポジウム—富山'95

主催：富山工業高等専門学校

会場：富山工業高等専門学校

後援：富山県、富山市、富山県高等教育振興財団

(〒939 富山市本郷町13番地)

会期：平成7年10月2日(月)～10月3日(火)

会議用語：英語、日本語

参加登録費・懇親会費：

参加登録月日	参加登録費（講演要旨集代を含む）			懇親会費
	学校・国公立機関関係者	企業関係者	学生・外国人	
9月10日まで	5,000円	15,000円	無料	5,000円
9月11日以降	7,000円	20,000円	5,000円	7,000円

ポスター発表での共同研究者のうち、発表者のみ参加登録費を免除します。

で、ある年は非常に乾燥した日々が続いて特異な現象が観測されたりするかと思うと、次の年には6時間に年降水量の1/3に相当する30mmもの雨が降って砂漠のあちこちに池ができ、1か月近くも残っていたという状態であった。したがって、わずかの期間の観測ではとうてい乾燥地の気候環境を正確に知るのとは不可能であるということになり、HEIFE終了後も一部の観測装置を残して、AECMP (Arid Ecological Comprehensive Monitoring Project) を現在も実施中である。

さらに、観測資料の第2次処理を行うと共に総合的な研究が開始され、時間をかけて詳細な研究を行うべく努力がなされている。本年末には英文の研究報告が

気象集誌の特集として発表される予定であり、引き続き論文が発表されることになるであろう。また、観測計画としてはもっとスケールの大きなアジアモンスーン地域の水循環を対象としたGAMEが、やはりHEIFEと同じ文部省の国際協同研究特別事業として1996年より開始されることになっている。今後もさらに関連した研究の進展を期待したい。

参考文献

光田 寧, 1988: 大気地表相互作用に関する日中共同研究 (HEIFE), 天気, 35, 501-506.



防災提言文募集

【テーマ】

「私の災害対応」

防災のための自助の科学と共助の知恵

1月の阪神・淡路大震災では、住民たちは最先端の科学技術以上に知恵としての「日常の科学」や経験による「生活の知恵」を駆使し、自立、復興に立ち上がりました。

そこでこのような貴重な経験やご意見をお持ちの方の、さまざまな視点による提言文の募集を行うものです。

【応募規定】

どなたでも応募できます。表題を書き込み、手書きの場合は400字詰め原稿用紙で7枚以内、ワープロ使用の場合は2800字以内とします。図などの挿入は最小限にとどめて下さい。

作品には、必ず、住所、氏名、生年月日、職業、電話番号を記入した用紙を添付して下さい。

応募作品は返却いたしません。入選作品の著作権は、主催者に帰属します。応募は自作、未発表のものに限ります。

【募集期間】

平成7年9月1日-10月31日 (必着)

【賞】

日本科学協会賞	(1名)	賞状と副賞	30万円
読売新聞社賞	(1名)	同	
優秀賞	(3名)	賞状と副賞各	20万円
入選	(5名)	賞状と副賞各	10万円
佳作	(20名)	賞状と副賞各	3万円

【発表・表彰】

入賞作品は、読売新聞紙上で発表を予定しています。表彰式は、平成8年1月16日(火)に東京で行う予定です。

【応募・問い合わせ先】

〒135 東京都江東区清澄1の2の1

読売新聞社事業開発部

「防災提言文募集事務局」

(TEL 03-5245-7093)

第8回 IGBP/GAIM 研究会のお知らせ

日時：1995年9月18日(月) 13:00~17:00

場所：名古屋大学大気水圏科学研究所

参加費：無料

招待講演：

1. 萩原 秋男 (名古屋大・農学部)
「樹木個体の CO₂ ガス交換」
2. 青木 周司 (東北大・理学部)
「炭素同位体及び酸素濃度を用いた CO₂ の
グローバル循環の評価」

その他一般講演

上記の日程で第8回の GAIM 研究会を開きます。地球圏と生物圏の相互作用について関心のある方はご参加下さい。

世話人：及川武久 (筑波大・生物科学)

木田秀次 (京大・理学部)



教授公募

北海道大学低温科学研究所では寒冷海洋圏科学部門の教授2名を下記により公募することになりました。つきましては関係各位にご連絡頂きますようお願い申し上げます。

記

1. 公募の対象

寒冷海洋圏科学部門 (大部門) 教授2名 (化学, 気象学, 各1名)

当部門では寒冷海洋域が地球全体の気候システムにおいて果たしている役割の研究を中心課題としています。このたびの公募では、この中で化学及び気象学の国際共同研究で中心的な役割を果たせる人を希望します。なお、大学院は北海道大学大学院地球環境科学研究科を担当して頂く予定です。

- 化学：化学的手法を用いて大気や海洋、或いは両者における物質循環過程を研究している人、また物理系研究者との交流に積極的な人を希望します。
- 気象学：寒冷海洋域における大気現象を主として観測的手法によって研究する人、また海洋との相互作用に関心をもっている人を希望します。

2. 着任時期

決定後なるべく早い時期

3. 提出書類

- 1) 履歴書
- 2) 主な研究歴
- 3) 研究業績リスト
- 4) 主要論文の別刷 (5編以内)
- 5) これまでの研究の概要 (2千字程度)
- 6) 今後の研究計画, 抱負等 (2千字程度)

4. 応募の締切

平成7年9月30日 必着

5. 提出書類送付先

〒060 札幌市北区北19条西8丁目

北海道大学低温科学研究所

所長 秋田谷 英次

封筒の表に「寒冷海洋圏科学部門教授 (化学または気象学) 応募」と朱書きし、書留で郵送して下さい。

6. 問い合わせ先

寒冷海洋圏科学部門教授

若土正暁 tel: 011-706-5480

E-mail: TigersV10@lt.hines.hokudai.ac.jp

又は

竹内謙介 tel: 011-706-5470

E-mail: takeuchi@clim.lowtem.hokudai.ac.jp



IGBP-NES シンポジウムのご案内

IGBP-NES シンポジウム国内委員会 (代表 井上元)

IGBPのコアプログラムである、BAHC、IGAC、GCTEは共同でインターコアプロジェクトとしてIGBP-NES (Northern Eurasian Study)を開始することを呼びかけています。

このIGBP-NESの全体テーマは炭素循環で、具体的には次の4課題です。

1. シベリアのツンドラと寒帯林の生態系での炭素循環やその他の重要な要素に対する気候変動の直接の影響を予測する。特に大気微量成分の発生や吸収及びその制御に重点を置く。
2. シベリアのツンドラと寒帯林の生態系での水やエネルギーの地表面—大気交換と地下水文に対する気候変動の直接の影響を予測する。特に水循環と炭素循環の結合に重点を置く。
3. シベリアのツンドラと寒帯林の生態系の構造及び生態系の機能に対する気候変動の直接影響(水、エネルギー交換、生物地球化学)を予測する。
4. 人間が引き起こした土地利用の変化と擾乱(最も重要なものは火災)のシベリアのツンドラや寒帯林の生態系の機能、構造、構成への直接影響を予測する。

その第一歩として、更に広い科学者の間に IGBP-NESの趣旨を紹介し、その計画立案や研究への参加を呼びかけ、更に、研究計画に改善を加え具体化していくことを目的とし、シンポジウムを開催することに

なりました。

この会議にはヨーロッパ・北米・豪州・日本などのBAHC、IGAC、GCTEのメンバーだけでなく、ロシアの代表的な研究者も多数招かれます。また、まだこれらの研究計画に参加していない研究者の参加も期待されています。

この会議では、

既に調査研究を行っているロシアや外国の研究グループの活動の紹介

北米・ヨーロッパでの研究に基づくロシアでの研究計画

どこでどのような形態で研究を行うかといった具体化の討議

組織問題

などが議論される予定です。

みなさまの参加をお待ちしております。

日時 1995年11月28日(火)から12月1日(金)
午前中まで

場所 国立環境研究所

問い合わせ先 〒305 茨城県つくば市小野川16-2
国立環境研究所

大気圏環境部 井上元

TEL 0298-50-2402

FAX 0298-50-2468

E-Mail inouegen@nies.go.jp



文部省後援：第10回「大学と科学」公開シンポジウム
 「都市震災と防災システム」
 阪神・淡路大震災から得た教訓

日時：平成7年10月21日(土)～22日(日)

場所：東京／有楽町朝日ホール

参加費：無料(聴講者多数の場合は、抽選となります)

第1日目 10：00～17：05

A 挨拶

第10回「大学と科学」公開シンポジウム委員会

B 地震と地盤震動の特徴

司会 京都大学防災研究所 入倉孝次郎

C ライフラインの被害と復旧

司会 京都大学防災研究所 佐藤 忠信

D 情報と社会

司会 東京工業大学大学院 大町 達夫

第2日目 10：00～17：00

E 構造物の被災メカニズム

司会 大阪大学工学部 井上 豊

F 耐震診断と耐震補強

司会 東京大学地震研究所 南 忠夫

G パネルディスカッション

—なにが被害を大きくしたか—

司会 横浜国立大学工学部 村上 處直

大阪工業大学工学部 竹内 吉弘

早稲田大学理工学部 浜田 政則

京都大学工学部 渡辺 史夫

東京大学工学部 藤野 隅三

東京大学生産技術研究所 片山 恒雄

申込方法：はがき、またはFAXでお申し込み下さい。

1. 住所・郵便番号・電話番号(自宅か勤務先かを明記)

2. 氏名・年齢・性別

3. 職業(勤務先・役職名)

4. セッション名「都市震災と防災システム」

5. 参加希望日(2日間両日のご参加も歓迎いたします)

申込・お問い合わせ先：

「都市震災と防災システム」事務局

〒105 東京都港区虎ノ門3-16-7

ビューアール虎ノ門3F(有)アドスリー内

TEL：03-3459-0006

FAX：03-3459-6894